

2021(令和3)年度自己点検・評価の概要

(1) 授業評価

授業アンケート実施方法について、後期アンケート(webフォームを利用)回答率が低い結果であったことを踏まえ、次年度は回収率を上げる工夫を行う必要がありますことを記述させていただきます。

評価に関して、各期に実施する全校学生に対して実施した授業アンケートをもとに評価しました。下表の表-1は評価の内容として、各科目の「授業時間の厳守」(以下「定刻」という。)と「授業内容の理解」(以下「理解」という。)の2点についてクラス毎に実施し、数値化し加えて平均したものを「総合点」と称し、各期の全科目の平均を「総合点平均」として表したものであります。

表-1 各期と全教科の総合点平均

期	総合点平均	変化
H30 前期	87	△1
H30 後期	88	△1
R 元前期	87	▼1
R 元後期	87	-
R 2 前期	85	▼2
R 2 後期	89	△4
R 3 前期	89	-
R 3 後期	89	-

表-2 総合点と科目数

期/総合点	80 点以上	70 点以上	60 点以上	60 点未満
H30 前期	68	3	0	0
H30 後期	67	5	0	0
R 元前期	66	4	1	0
R 元後期	69	3	0	0
R 2 前期	68	3	0	0
R 2 後期	70	2	0	0
R 3 前期	71	2	0	0
R 3 後期	68	3	0	0

表-1 より今年度の全教科年間総合点平均は三期連続して 89 点となり、ほぼ目標数値(90 点)を安定的に維持できました。この結果よりコロナ禍における感染拡大防止と学びの質保証の両立を目指すため、前年度の後期から実施し定着している建築デザイン科合同科目に対する学内オンラインライブ授業やその他の実習系及び工学科の対面授業が適切であったと推察します。細部、全学年において「定刻」の評価平均は 98 点ではほぼ完全の厳守ができたと言える、他方、「理解」の評価平均は 81 点であり、目標数値(85 点)に届かなかった。学生アンケート結果をもとに、「理解」評価向上の手だてとして、一つには一般教養科目も含めて全ての科目の学びが大切で必要なことを諭すこと。今一つは科目の配当学年の見直し、特に実習系科目が集中している学年を分散させることにより他の科目を含めて学びの充実が図られ結果、理解の向上に繋がると考察します。次に表-2 の 70 点台科目について内容の創意工夫をしていただき、興味を持たせる授業をお願いする次第であります。

表-3 学年クラスごとの年間(前期・後期) 総合点(数値目標 90 点) 平均

クラス(A:工学科、B:デザイン科)	1A	2A	3A	4A	1B	2B
年間(前・後期)総合点平均	88	91	87	92	89	91

表-3 について細部、前後期で比較すると「定刻」評価は 98 点以上で安定していましたが、「理解」評価で工学科に差が出ました。アンケート自由意見ではスクリーン投影授業に関して、「見えづらい」・「投影スピード移るのが早い」・「資料文字が小さい」の意見がありました。先生方にはこれらの学生意見を含みおきいただきまして次年度、前後期安定した理解度向上の授業をよろしくお願い申し上げます。

表-4 今年度の出席状況と次年度予想(2022/ 3/ 3)

クラス	2021(令和3)年度の状況	2022(令和4)年度の予想
4A	前期出席率 95%、不良者 0 人。後期出席率 86%、不良者 2 人。後期は卒業研究の影響で自己管理がみだれ欠席増	留年者なく全員が卒業予定

3A	前期出席率 97%、不良者 0 人。後期出席率 91%、不良者 1 人。不良者は体調不良による欠席過多	(新 4A)不良者 1 人、現留年者 1 人を除く全員が進級予定
2A	前期出席率 90%、不良者 4 人。後期出席率 87%、不良者 5 人。不良者は病気、自己管理不足、科目に偏り欠席あり	(新 3A) 出席不良者は成績不良でもあるので、複数人留年の可能性がある。継続して注意指導を行う必要がある
1A	前期出席率 97%、不良者 0 人。後期出席率 93%、不良者 2 人。不良者は病気、自己管理不足で欠席過多	(新 2A)後期に発出した不良者を除けば、出席率は良好であり全員進級が予想される
2B	1 組: 前期出席率 87%、不良者 4 人。後期出席率 73%、不良者 11 人。 2 組: 前期出席率 91%、不良者 0 人。後期出席率 77%、不良者 9 人。 両組ともに後期、病気、卒業研究の影響で自己管理が乱れ欠席過多	卒業。 (不良者の傾向は、時限(1 時限目)欠席、曜日が偏り欠席、卒業研究審査週の欠席で、卒業に向けて追試験等を実施) (留年の可能性がある不良者 3 人)
1B	1 組: 前期出席率 95%、不良者 1 人。後期出席率 88%、不良者 3 人。 2 組: 前期出席率 91%、不良者 3 人。後期出席率 84%、不良者 8 人。	(新 2B)後期、出席率低下における留年者発生を懸念する。また、不良者の多い 2 組においては進級後、該当学生に卒業学年であることを厳しく伝える指導が必要である
まとめ	出席不良の学生には、初心の志を再確認させ出席の重要性を再認識させる。また、担任と科目担当者、必要により保護者が連携し欠席過多を防止し進級、卒業に導く指導をする	

(2) 退学者状況

表-5 退学者の推移

年度	退学者計	在籍数	退学率 (%)
H22	9	102	8.8
H23	9	102	8.8
H24	3	91	3.3
H25	7	80	8.8
H26	11	115	9.6
H27	21	165	12.1
H28	24	228	8.3
H29	21	281	7.4
H30	20	294	6.8
R1	24	282	8.5
R2	24	298	8
R3	9	297	3

表-6 2021(令和 3)年度退学者数(2022/3/3 現在)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
組	2	0	1	1	1	0	0	2	0	1	1	*	9
1A	1							1					2
2A	1				1								2
3A													0
4A										1			1
1B1			1	1									2
1B2								1			1		2
2B1													0
2B2													0

表-4 の出席状況に関しては全学年、通年の出席率平均は 88.5%で目標である 90%に若干及ばない結果となりました。細部、今般コロナ禍、感染拡大防止対応としまして公欠扱い学生が多く発出しておりますが当然そのデータも出席に含まれていますので学生が実際、登校して授業を受けた率はこれより低いと考えられます。従いまして、次年度の教育課程ではこのことを認識したうえで復習の機会を用意するなどして授業を実施していただければ幸いです。

次に退学者に関してですが、年度の退学者数は 3 月の進級判定会議結果による留年者の動向で、最終的には次年度 4 月の会議にて決定します。例年、留年により退学者が数名出ておりますので、今後、退学者数は増加する

可能性があります。

表-5 より、今年度は現時点で 9 人の退学者が発生しております。表-6 は今年度のクラス別の退学者数を示したものです。細部で退学理由として大学・他学校受験が 4 人、進路変更が 2 人、経済的理由を含めた就職が 2 人、健康上の問題が 1 人でした。

ここで、今年度は傾向として明確に表れていませんが過去の退学者の共通の傾向を調査した結果、高等学校時代の自己管理能力不足による欠席日数が多いこと、または通学が身に付いていない、高等学校のランクや教科の評定が低いことなどです。このことは本校の時間割に対応できず欠席、その影響で授業内容がわからなくなり、長欠席から課題等未提出、単位未修得が生じることにより建設の人としての志が薄れて退学に傾いてしまいます。退学者を減少させるため、一般出願時の高等学校調査書記載の内容で欠席数が多い場合は面接試験を実施し必要な注意を促し、また予防対策として前もって学校説明会での個人面談のさいに確認の上、必要な話(授業出席率 90%以上)をしています。また、関連して次年度からは学生募集において推薦出願を認める高校を学力レベルで絞り、定めて対応することを実施します。これにより学力レベルの高い高校の学生を入学させることが出来ることに繋がり退学者の減少、在校生全体の学力の向上を図ります。

病気を理由に退学する学生については持病や精神的障害により通学の困難さが妨げになり長欠席を理由に退学してしまいます。本人の専門を学ぶ強い意志があるにも関わらず病気によりその思いが果たせないことは残念であります。また、経済的理由により退学を余儀なくされる学生は多くはありませんがおります。そこで成績優秀であるが経済的困窮な在学生に対しては公的な制度である文部科学省の「高等教育修学支援新制度」の活用とともに次年度、新たな奨学金制度を創設して修学支援します。

入学者を全員、就職(一部進学)させることが本校の使命であります。専任教員には退学者を減少させるため、科目担当の先生方には入学時の建築に対するモチベーションを維持・向上させるための教育指導を継続して実施いただき、また、担任においてはとくに生活指導などご父母等、保護者とも連携をはかり、退学防止に努めていただくことをお願いいたします。

(3) 資格取得状況

1. 2級建築施工管理技術検定合格率 2020年11月8日 後期試験実施

全国合格平均率 48.8% (前年度 35.9%)

学校一括申込者合格率 50.0% (5名 / 10名) (前年度 18.1% 4名 / 22名)

*上記の 2 級建築施工管理技術検定(学科試験のみ受験)試験は平成 28 年度において建設業法施行令等改正があり、満 17 歳以上となる方が受験できるようになりました。

2. 福祉住環境コーディネーター検定試験

3級 2021年7月~8月 インターネット受験

全国合格平均率 _____% (前年度 _____%)

本校合格平均率 66.7% (10名 / 15名) (前年度 _____% _____名 / _____名)

本校受験率 13.2% (15名 / 114名) (前年度 _____% _____名 / _____名)

※1学年のみ 欠席者 留年者 自宅受験者 除く

※昨年度 試験中止

3. 建築 CAD 検定試験

3級 2022年1月8日 試験実施

全国合格平均率 _____ 第 87 回 (前年度 73.2% 第 83 回)

本校合格平均率 _____% _____名 / 25名 (前年度 84.0% 21名 / 25名)

本校受験率 55.6% 25名 / 45名 (前年度 55.6% 25名 / 45名)

※1Bのみ 欠席者 留年者除く(受験定員 45名)

4. MOS(マイクロソフトオフィススペシャリスト)

○Word スペシャリスト 2021年7月17日 試験実施

全国合格平均率 非公開 (前年度 非公開)

本校合格平均率 62.5%(5名 / 8名) (前年度-% -名/ -名)

本校受験率 7.01%(8名 / 114名) (前年度-% -名/ -名)

※1学年のみ 欠席者 留年者除く

※昨年度 試験中止

○Excel スペシャリスト 2022年1月22日 試験実施

全国合格平均率 非公開 (前年度 非公開)

本校合格平均率 -%(-名 / -名) (前年度 40.0% 4名/ 10名)

本校受験率 -%(-名 / 114名) (前年度 8.06% 10名/ 124名)

※1学年のみ 欠席者 留年者除く

※受験申込者数不足のため団体受験中止

5. JIS 品質管理責任者(JIS 規格より講習)

建築工学科(4年制) 合格率 89.3%(42名 / 47名) (前年度 92.1% 35名 / 38名)

6. 建築積算士補 2022年1月29日 試験実施

建築工学科合格率 86.2%(25名 / 29名) (前年度 55.5% 15名/ 27名)

建築デザイン科合格率 92.8%(13名 / 14名) (前年度 69.2% 9名/ 13名)